



# 森のなかま

2023年 8月号

NO. 182 (継続327号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史  
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

【森林技術部会主催】

## 竹林整備研修会

日時： 2023年5月21日(日) 9:30~14:30

場所： 相模原市中央区田名塩田2号緑地

講師： 岩田 典義<sup>⑭</sup>、真貝 勝<sup>⑪</sup>、竹内 明彦<sup>⑮</sup>

参加者： 滝澤洋子<sup>⑤</sup>、水野安則<sup>⑭</sup>、相澤恵美利<sup>⑮</sup>、小国一男<sup>⑰</sup>、小俣慈<sup>⑰</sup>、高谷秀史<sup>⑰</sup>

中鉢実則<sup>⑰</sup>、野口忠志<sup>⑰</sup>、三浦由香子<sup>⑰</sup>、柳沢徳雄<sup>⑰</sup>

(記：小国 一男<sup>⑰</sup>、写真：岩田 典義<sup>⑭</sup>)

森林技術部会が主催する本年度第1回目の研修会として、「竹林整備研修会」が田名塩田2号緑地にて行われた。当緑地はこれまで数回「県民参加の森林づくり」の開催地となっており、JR相模線番田駅から徒歩約20分の場所に位置している。

今回の研修の目的は次のとおりで、森林技術部会有志による講師3名、17期生を主とした参加者10名により研修を行った。

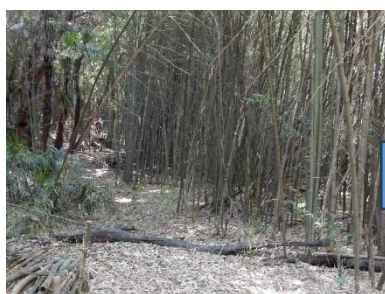
- ① 放置竹林の現状を理解し、対応策を考えて実践する。
- ② 竹林整備における基本的技術の習得・再確認を、実践を通して行う。
- ③ インストラクターとして安全に、そして求められた仕上がりになるよう指導することを習得・再確認する機会とする。

9時30分、塩田自治会館前に全員集合。オリエンテーション、準備体操を行い、装備を整え作業域に移動、10時に研修を開始した。参加者10名は作業域別に2班に分けられたが、上記目的を念頭に、作業は一人ひとり個別に行い、自身で考え自身で実践する形で行われた。

具体的な作業目標として、伐採後の竹の蓄積をきれいで整然とした状態にすることとし、適切な蓄積場所の選定から入り、自身があまり移動せずに処理する動きなどを考えながら作業にあたった。自身としては蓄積のきれいさに特に注力し、竹の長さが揃うように切り置き、落とした枝も通路から見栄え良く配置するようにした。細かくは、竹の元先を交互に置き蓄積の高さを均等にする、枝の元を揃えるのは当然で、葉の表裏を統一して重ねるなども実行した。

また研修の一つとして、講師にて、倒れかけた竹を逆方向に伐倒する方法のデモンストレーションを行った。ロープを竹上部の枝に引っ掛け引っ張る手法で、引っ掛ける枝が無い場合は「もやい結び」にてロープを竹上部に固定する手法の説明を受けた。竹が緑地から民地や道路にはみ出している際に有用である。

研修は昼食をはさみ14時30分まで行われ、最後に出来上がった各自の竹の蓄積状態の評価を行った。講師からの細かい指摘はあったものの、皆さん概ね求められた仕上がりになっているとの評を得た。また、皆さんいつもは指導する立場なので、思い切り伐採出来る今回の研修では、安全に留意しながらも楽しげに作業していたように見えました。



**<森林文化部会主催>— 竹細工教室**

日時----2023年6月18日(日) 10時00分~15時00分

場所---秦野市保健福祉センター 2F 創作活動室

講師----竹のかわせ 二代目 川瀬 隆氏

参加者 6名 菊池 昭子①、真貝 勝①、江上 徹⑬、岩田 典義⑭、小国 一男⑰、小松 立史⑱

**<記：小松 立史⑱、写真：参加インストラクター>**

竹林整備などの活動の際に入手できる竹材を利用し、生活の中に取り込みたいという思いで昨年に引き続き、森林文化部会主催で第二回竹細工教室が開催されました。講師は前回と同じく“竹のかわせ”店主の川瀬 隆氏をお招きしました。

冒頭に前回は竹ヒゴを使用した「一輪差し」ほかでしたが、今回は難易度を上げ「ランプシェード」を考えたが、参加人数が6人と少ないため更に難しい「六つ目編みの花かご」にすると説明がありました。

昨年の一輪差しで相当苦勞した記憶から、ついていけるかな、大丈夫かななどの不安がよぎります。前回と同様に講師がマダケを割いて作った竹ヒゴ(巾6mm、厚み0.5mm程度、長さ42cm)を、水に浸して柔らかくした後に竹の外側の柔軟な6本を選択し、台紙の上で六つ目編みのスタートです。

先生の手さばきを後ろから見て同じようにやってみるのですが、編み方が複雑で頭と手がついていけず、また押さえていたところが緩んでくるなど難問続出でなかなか先に進みません。特にカゴを立ち上げるところが難しく、悪戦苦闘の結果、講師作成の見本品には遠く及びませんが竹ヒゴ14本で編んだカゴに、4本で取っ手を付け、計18本で何とかMyカゴが完成しました。

当日は他の活動と重なったために参加人数が少なく、講師から手取り足取り教えて頂くことができなくてラッキーでした。完成品をよく見ると、小さな三角形と五角形と六角形の組合せでできた幾何学模様の芸術品です。誰が考えたのかと関心至極です。講師のお店に立ち寄った外国人観光客が素晴らしいと絶賛することも珍しくないとのことですが、竹細工の後継者不足で店仕舞いが多く、竹細工の文化と技法を伝承していきたいとの思いを講師は語っておられました。



ネットワーク活動のクラフトとしては難易度が高すぎると思いますが、何とか竹細工の文化を役立てることはできないかと思った次第です。

昨年と今年と二回にわたって竹細工教室を開催していただいた森林文化部会の皆様に感謝いたします。

## 【自然観察部会主催 第105回森林探訪】

## 鶴ヶ峰からふるさと尾根緑道を行く

日時：2023年6月24日（土）

参加者：21名

インストラクター：松永 廣<sup>⑪</sup>、松石 藤夫<sup>⑬</sup>、牧石 稔<sup>⑭</sup>、河西 静夫<sup>⑮</sup>、小池 宗子<sup>⑰</sup>、  
大谷 雅彦<sup>⑱</sup>、久慈 真理<sup>⑲</sup>コース概略：鶴ヶ峰公園（集合）→帷子川親水緑道→白根神社→鶴ヶ峰配水池  
→ふるさと尾根緑道→ズーラシア（ゴール） 距離約8.5km（記：久慈 真理<sup>⑲</sup> 写真：松石 藤夫<sup>⑬</sup>）

朝、順次お見えになった参加者の方々は、早速、公園の木々をご覧になって、他の参加者の方々と「これ、ボタンクサギかしら？」など興味全開のご様子、楽しい会になるなという素晴らしい予感とともにスタートしました。



距離を縮める自己紹介(3班)

全体は3班に別れ（牧石リーダー、小池リーダー、河西リーダー）、工夫を凝らしたプログラムでツアーを開始です。

最初の見どころは帷子川親水緑道。アカシデに迎えられた後は、コブシ、サワフタギ、カラスビシャク、ヨウシュヤマゴボウ、キツリフネなど“今”見ていただきたい姿が特徴的な草木を中心に参加者と一緒に見て、触れて、嗅いでいきました。

カラスビシャク  
ピンと伸びているのに注目キツリフネ  
ツリフネソウとの違いわかるかな？エゴノキの虫こぶ  
(エゴノネコシアブラムシ)

当日は少し蒸し暑く感じられる気候だったからでしょうか、白根神社の先、白糸の滝では、手前のモミジと一体になった涼の風情に癒されながら、「秋になったらまた来ようね」と新しい場所の発見に喜ばれる姿も見られました。

お昼は今宿東公園で、満開のネムノキに松尾芭蕉の「象潟や雨に西施がねむの花」（1689年秋田象潟にて）などを思い出しながら、ゆったりとお休みいただきました。午後のハイライトは、午前中にもご紹介した、鶴ヶ峰配水池と神奈川県配水システム、その実体験としての導水路上に整備されたふるさと尾根緑道を歩き観察することです。午前に配水池の歴史や災害時に果たす役割、神奈川県全体の配水の仕組み等を聞かれた後、導水路を実際に見ていただきました。すると、「水道“管”じゃないんだ」「今も使われているの？」など、水は誰かが整備してくれるものという意識が、実際のモノの形を伴うものに変化したように見受けられました。



ホタルブクロ

そろそろ見ごろも終わりです


その他、多数の道々の草木を観察しながら、経路上の駕籠塚で歴史を振り返ったり、トビズムカデ（日本最大級）に遭遇したりしながら、全員無事にズーラシアへゴールしました。



見つけた！（2班）



熱心に続く質問（1班）


**丹沢**  
 丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会の  
 ホームページをご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>

## 森のめぐみ シリーズ

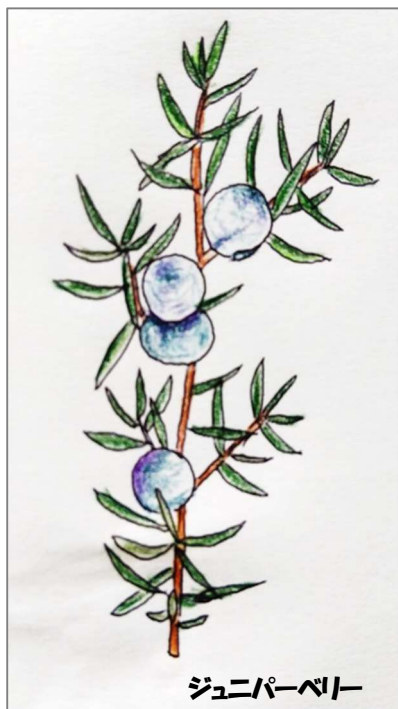
枠組は桜の小枝です

メタボリックシンドロームという言葉が最近よく耳にします。メタボとも略されていますが、おなかの内臓に脂肪がたまり胸囲が大きくなり、高血圧や高糖尿、脂質代謝異常が重なり動脈硬化が進行し、心臓病や脳卒中などになりやすい症状のことです。

戦後 経済的に急成長を遂げたわが国では物資が豊富に出回わり、食生活も豊かになりました。食生活の洋風化や日常のくらしが便利になるにつれての運動不足が肥満の原因となり、メタボリックシンドロームを起こしやすくなると言われています。肥満は生活習慣病の引き金となるため健康な生活を送るためには肥満の予防は大切です。そのようななかで肥満を抑制する植物成分の研究も行われています。その一つがジュニパー精油の香りが肥満を抑制するというラットを用いた実験です。

ジュニパー精油はセイヨウネズの果実から採取した精油で、アロマセラピーでよく利用されているものです。果実はジュニパーベリーの名でも知られ、その特有の香りがお酒のジンの香り付けとして、またスパイスとしても利用されています。

ジンにジュニパーベリーが使われたのは17世紀の中頃です。オランダの大学の医師が当時利尿剤として用いられていたジュニパーベリーの精油を得るためにアルコールに入れて蒸留したのが始まりです。



ジュニパーベリー

第52回 肥満抑制に  
木の香り  
東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏

初めは薬用酒として薬局で売られていたのですが、その香りが好まれ酒として普及していったとのことです。

ところでジュニパー精油の肥満抑制効果については、ジュニパー精油の香りが漂う中でラットを飼育すると体重増加が抑えられることからわかっています。嗅覚障害ラットでは体重増加の抑制が認められないことから香りが肥満抑制に関わっていることも明らかにされています。

セイヨウネズは植物分類学の上ではビャクシン属に属します。ビャクシン属は北半球に50~60種存在し、わが国でもよく見かけるカイヅカイブキやネズミサシもその仲間です。

ネズミサシはネズの名でも知られていますが、地域によってはモロギ、モロ、ムロノキとも呼ばれます。ネズミがこの木のそばを通れないほどに葉がとがっていて触れると痛く、ネズミの穴ふさぎに使われてことからその名がついたと言われています。この球果が杜松実(としようじつ)で香りのよいテルペンなどを含み、利尿・発汗などの薬用になります。セイヨウネズと同じような働きをします。そのようなことからかもしれませんがネズミサシの球果もジンの香り付けに使われます。

セイヨウネズの分布域は広く、ヨーロッパ、北米、アジア、アフリカの地中海沿岸など北半球のほとんどの地域に分布しています。その変種も多くわが国には本州北部に分布するミヤマネズ、北海道に分布するリシリビャクシンも変種の一つで高山帯に地面を這って生育しています。

精油を賦香し肥満抑制効果を謳った製品も店頭にならぶようになりました。精油の新たな利用と言えるでしょう。木の香りではヒノキ材の香りに肥満抑制効果があることも確かめられています。

(イラスト 広報11期 長尾(大塚) 晴子)

次回(第53回)の掲載は10月号になります。

## 活動短信

今回の掲載はR5年5月27日からR5年6月10日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

### 8月(葉月)(旧暦7月文月)の 二十四節気と雑節、鎌倉の田んぼ

二十四節気 :立秋8/8 処暑8/23

雑節 土用(7/20-8/7)土用は季節の変わり目、年に4回あります。丑の日にウナギを食べるのは、コマーシャルの走りですかね。田んぼでは草との戦い中ですが、今年は雨が少なく、ひび割れが生じています。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明  
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。  
(できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

#### ◆ 活動団体・活動名 等

日付(できれば時間と天気も)

場所(例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参加者 人数

例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、看護士

スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター① (○数字:期) 研:研修枠

以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください

リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

\*\*活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。\*\*

#### ◆ J&T 環境株式会社 総務部 新入社員研修

日 令和5年5月24日(水)10:00~15:00 晴れ

場 県立21世紀の森

参 大人22名

県 水源環境保全課 水源の森林推進グループ 村田様、  
広川様

イ L 牧石⑭、上田⑩、西岡⑭、小国⑰

新たなパートナー企業である「J&T 環境株式会社」様向けに、「県立21世紀の森」にて枝打ちと自然観察の支援を行いました。「J&T 環境株式会社」様はリサイクルを主事業とし、川崎市と横浜市に本社を置き全国に事業所展開している会社です。今般の活動は今年度の新入社員研修



の一つとして行われ、引率含め22名の方が川崎から現地にやって来ました。

10時過ぎに全員集合し、体操、装備を整えて枝打ち作業の場所となる「成長の森」エリアに移動。インストラクターが適宜説明しながら無花粉スギの枝打ちに取りかかります。



現場は結構な斜面で足場の確保に苦労しながらも、若さと体力で作業を進めていき、1時間あまりで予定の約50本仕上げたところで午前中の活動は終了となりました。

昼食後はグループ別に「どんぐりコース」と「金太郎コース」の自然観察です。コースの散策がメインですが、「森林館」の展示資料を見せて枝打ちの意義をおさらいしたり、ムクロジ(無患子)の実の皮を使った泡立ち実演を行ったり、少し変化をつけてみました。

散策中は現地の山々の成り立ちや、かつての里山のクヌギ、コナラの活用の話、ちょうど開花していたギンリョウソウの栄養を取る仕組みや、サイハイランの名前の由来なども興味を持って貰えたようでした。

全ての活動を終えたのは午後3時頃になりましたが、この日は前日の雨も上がり快晴の空のもと、木々の微妙に異なる緑色がはえてとても気持ちの良い活動になりました。聞くと参加した新入社員の方は研修が終わると全国の事業所にそれぞれ配属になるとのこと。この日の活動が同期の繋がりの一助にもなれば幸いです。(記 小国 一男⑰ 写真 牧石 稔⑭)

#### ◆ 2023 春 ENEOS みらいの森 森林活動

日 令和5年5月27日(土) 10:00~12:00

場 県立21世紀の森

参 168名

県 水源環境保全課 黒田様、星様

イ L 上田⑩ <間伐>松本⑪ 坂井⑮ 石垣⑮ 森本⑰

<枝打>小笠原⑩ 山崎⑦ 松浦⑯ 小国⑰

<竹林>山口⑪ 大谷⑰ 野口⑰ 小池⑰

<自然観察>西岡⑭ 杉崎⑩ 小沢⑨ 三浦⑰

<クラフト>森本⑤ 長尾⑪ <丸太切>村井⑨ 計20名

#### <間伐班>

間伐班は23名でインストラクター4名が担当しました。きつい斜面での作業、さらに樹高が15m程と大きく成長したカツラの間伐であり、安全作業に配慮しての作業となりました。経験者と初心者混合の班分けでしたが、職場で理解し

合う者同士のためか、若者から上がる質問に丁寧に答える年長の方の姿勢がとても印象に残りました。



洞があり、かかり木になる等苦心した班もありましたが、一致団結・声を揃えて引張り、無事怪我もなく無事作業を終える事が出来ました。参加者の皆さまからは、「こんな大変な作業とは思わなかった。山仕事はつらいですネ」「切った木の後、森を守るための仕事は何ですか?」「薪での生活はもう遠のきました。『里山』つてもう身近にないですよ。でも今日感じました」等々の発言があり、森を手入れする必要性を身近に感じていただけた時間になったかと思えます。

(玉切りした樹木は、間伐材利用(クラフト用材料)するため材木保管場に運びました) (記:石垣 桃栄⑮)

#### <枝打ち班>

枝打ち班は 32 名(小学生 3 名)でインストラクター 4 名が担当しました。作業道具装着後、手袋が準備されていなかったことなどで現場到着が遅くなり作業時間が少なくなりました。



今回の枝打ちから一人当たりの作業量が決められた中での作業となった。人工林の管理の中で枝打ちすることの必要性やその効果などを知ってもらい、正しい施工方法を説明し 1 本 1 本丁寧に作業してもらった。地際の枝から無理なく作業できる高さの枝まで、切った後に「でべそ」ができていないか確認しながら作業は進んでいった。早く予定の作業が終わりももっとたくさん作業できるぞと物足りなさを感じている人もいましたが、切った枝などの整理まで入念に実施していただき、林床が開け光もまだ十分ではないが明るくなった林床を見て、達成感を感じてもらえたと思います。作業を終えて森を出るとき眼前に広がる相模灘や遠く房総半島などが見え、短い時間であったが成長の森の木々が健やかに育つてゆくために作業したことと一緒に参加者のみなさまの心に残ってくれればよいなと思いました。お疲れ様でした。

(記:松浦 正⑯)

#### <竹林整備班>

竹林整備班は 30 名(4 班構成)でインストラクター 4 名が対応しました。倉庫前広場にて班毎に道具装着、活動内容の説明、安全に対する説明、鋸、剪定バサミの使い方・装着の

仕方の説明後竹林に移動した。

今日の活動の安全目標の確認、作業手順の説明→作業前状況を確認→経路周りの散乱竹材を綺麗に積み直し→竹伐材の集積場所の設置(桿材置場、枝置き場設置)→斜面下部から皆伐開始 途中、一回給水タイムを摂り、継続して皆伐作業を進めていった。



4 班で 200 m<sup>2</sup>弱のエリアの皆伐・片付け作業が行われた。作業を終えるにあたり、各自の道具とケガなどしていないか確認し、作業の終わったエリアを見渡し作業前の状況と変化を確認した。参加者それぞれの方々が作業に対する達成感や仲間と一緒にやり終えた一体感、また、『いい汗かいたなあ』と言う声も聞こえ皆さんの満足感と自然の中での癒し感など感じてもらえたと思います。傾斜地での作業でしたが全員怪我なく無事に作業が終える事ができました。

(記:大谷 雅彦⑰)

#### <自然観察班>

然観察への参加者は 42 名で 4 グループに分かれ、どんぐりコースと金太郎コースを歩きました。普段あまり山歩きなどをされない方がほとんどで、21 世紀の森を歩くのは初めての方ばかりでした。スタート前に自然散策をする際の注意点と散策予定の森の説明を行い、杉と檜の実を用いて形や香りなど、五感を使った森の楽しみ方を体験してもらいました。散策をしていくと、初めはスギとヒノキの違いが分からなかった方も木々の変化に敏感になり、歩く道の落ち葉からその落ち葉の主を見つけることを楽しんでいました。



どんぐりコースのナラやカシの森では、木漏れ日の射す広葉樹林の雰囲気を楽しんでもらった一方で、その付近の下草がないことについて、鹿の食害やヤマビルの各地への広がりのお話をさせていただいたのですが、参加者のみなさんが森と自分たちの生活に繋がる事をおのおの感じてくれた様子でした。初夏の 21 世紀の森をみなさまに楽しんでもらうことが出来ました。(記:三浦 由香子⑱)

#### <クラフトと散策班>

クラフト散策班は、参加者 32 名、インストラクター 2 名が担当しました。10:20-11:00、11:20-11:30 の 2 班に分かれて、クラフトと散策の両方を体験し、11:30-11:50 森林館展示室を

見学しました。散策は森林館の周りの植物観察でスギの象形文字のできを学んだり、葉っぱの笛(葉巻き笛、キジ笛)に子供達が挑戦しました。クラフトは4種類から選んだキットを金槌とヤスリを使って組立てました。ケガも無く、楽しく活動できました。

森林館では、林産物、森の恩恵を五感を使って学びました。子供も大人も和やかな雰囲気特に子供達がニコニコとしているいろいろなことに興味をもっていたのが印象的でした。

(記：長尾 晴子①)

(全写真 上田 啓二⑩)

## ◆ 東芝プラントシステム

### やどりき水源林自然観察

日 令和5年5月27日(土) 晴

場 やどりき水源林

参 大人11名

イ L 上宮田① 水口⑨

パートナー企業となるもコロナ過で活動が阻まれ、昨年は社長、事務局で看板設置個所まで下見、今回が4年目にして初めての活動とのこと。幸い天気にも恵まれ絶好の観察会日和で、みなさんは新松田駅からバス利用レグートまで歩いて来られ、ウォーミングアップもばっちりでした。オリエンテーションの後、早速、側溝でモリアオガエルの卵塊を見つけ、「森は水のふるさと」の説明

板前では県の水資源と森の現状にも真剣に耳を傾けられ、税の使われ方についてもご説明しました。



山椒・コクサギ・マツカゼソウ・クロモジの香り体験、また、ジャケツイバラ、ウツギ類、サルナシ、マタタビ、ヤマボウシの花にも出会え、自然と人の生活への関わりについては、参加者の幼少のころの体験談などで和やかな雰囲気に包まれました。本日の最大目標でもある林道終点の看板前での記念撮影や看板掃除は、みなさんの水源林保全支援への強い思いがしっかり伝わってきました。

休憩をはさみながらエゴノキの花を水の入ったペットボトルに入れ、シャカシャカしていただくと見事に泡立ちます。昔石鹸に利用されたが有毒でもあることを説明しました。枕状溶岩前では丹沢や日本の成り立ちにも触れ、Aコースの展望台では、鍋割稜線～鍋焼きうどんを目指し登った参加者のお話しで盛り上がりました。さらに進み北アルプスもどきのコースでは管理棟付近からは

想像も出来ないような地形と滝、そして対岸に目をやると、岩盤一面に張り付いて開花を待つ、イワタバコの姿がありました。樹洞のある場所ではムササビの生態にも触れ、ヤマビルの被害もなく無事下山。最後に滝郷の滝の見学とせせらぎの木伝道も体験していただき、水源林の魅力に浸っていただくことができました。



(記 上宮田 幸恵① 写真 水口 俊則⑨)

## ◆ 厚木市立緑ヶ丘小学校

### 森林ゲーム

日 令和5年6月8日(木) 12:30～14:30 曇

場 厚木市七沢自然ふれあいセンター

参 102名(5年生児童 95名 教諭他7名)

イ L 柏倉④ 西出⑫ 牧石⑭

事前に学習した「神奈川の森林を知ろう 緑を守り育てよう！」をふまえ、身近にある森林に入り、森林の様子を直接体感することを目的とした「森林ゲーム」を行った。

このゲームは、ふれあいセンターの敷地内に設置された25地点のポストをグループごとに回ってポスト地点の記号を記入してゴールするプログラムである。本来はグループ間で速さと正確さを競い合うゲームであるが今回はコース内にある樹木や野草の説明版を見ながら



取り組むというゆとりのある活動であった。

インストラクターは指示された地点に待機し、周辺の植物の説明や森林の状況などについて簡単な説明をした。(ケヤキの漢字と樹形)(高台からの遠景と色彩の違い)(人工林と自然林の様子)(クヌギとコナラの違い)(どんぐりの特長)(スギの特長と使い道)(スギの学名の話)(スギの葉の手触り)等について簡潔な話をし、サインをして次の地点へ送り出す役割を担った。

閉会式での子ども達の満ち足りた表情が印象的であった。  
(記、写真 柏倉 紘④)



### ◆ 第3回 県民参加の森林づくり 竹林整備

日 令和5年6月4日(日) 晴

場 小田原市小竹(住宅供給公社有林)

参 44名

財 倉野様、南橋様 看 青木様

スタッフ 住宅供給公社 金子様

用具配備 小田原市森林組合様

イ L野村⑭、菊地①、永田⑩、鈴木⑰、渡辺⑫、  
宮下⑫、松原⑰、岡村⑯、徳岡⑪、兵頭⑰、  
久慈⑯、西村⑮、野口⑰、内田⑰ 14名

台風の影響による大雨のため予備日開催となりました。

当初約100名の参加予定でしたが、この日は44名の方に参加していただきました。

集合場所の二宮駅から活動場所までバスで移動しますが、後半のバス乗車人数は少し寂しい感じになりました。

また、各班の人数にばらつきはありましたが、班編成を変更せず作業を開始しました。



前日の大雨で斜面が滑りやすく、作業中はインストラクターが周囲に目を配り、注意喚起の声かけを行いました。参加者同士も協力し合い、真剣に作業を進めていました。野村インストラクターが各班を回った時には「笑顔で作業してくださいね

〜」と何度も声をかける程でした。

予想最高気温 27℃、蒸し暑い中で作業となり熱中症の心配もありましたが、各班とも適宜休憩をとりながら水分補給、財団より配られた塩タブレットを口にしつつ、無事作業を終えることができました。



蜂に刺された方が1名いましたが、青木看護師の手当のおかげで事なきを得ました。

作業後は、各班作業地内のタケノコを収穫し、お土産として持ち帰りました。(写真 兵頭 武志⑰ / 松原 純子⑰)

(記 内田 祐子⑰)

### ◆ (株) アルバック 森林再生プロジェクト 枝打ち、木工クラフト

日 令和5年6月10日(土) 10:00~12:30 曇

場 県立21世紀の森

参 大人42名、子供5名

県 環境農政局緑政部 水源環境保全課 広川様 秋元様

イ L牧石⑭、西出⑫、石垣⑮、小国⑰、小池⑰、森本⑰、  
三浦⑰



株式会社 アルバック 活動名:森林再生プロジェクト2年目の活動が行われた。二日前に関東甲信地方の梅雨入り発表があり、前日まで雨天であったが当日は雨も止みスケジュールどおり活動開始。10:00運動広場に全員が集合し、挨拶、インストラクター紹介、準備体操、集合写真撮影を行った。参加者は枝打ちグループ、木工クラフトグループに分かれ活動実施。枝打ちグループ参加者25名(子供1名)は用具倉庫前に移動し

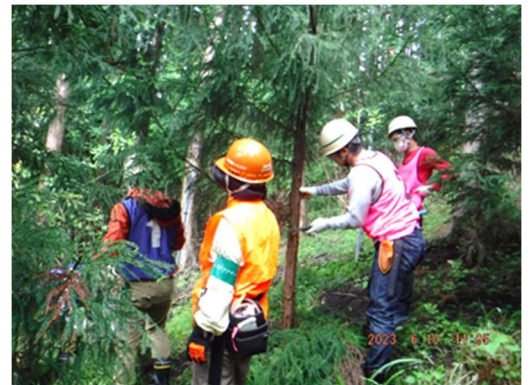
用具の搬出、装着を行い10:40~枝打ち作業を開始。活動中はしっかり水分補給を行い、11:50現場での作業を終了 合計79本の枝打ちを行った。

木工クラフトグループ参加者20名(子供1歳~10歳 4名)は集合写真撮影後、インストラクター2名の案内で森林館内の研修室へ移動、木工クラフト内容はマイハシ作り+鉛筆立て、スマホスタンド、ピンボール、カリンパ、小物入れ、ミニカー、ゴムガン、貯金箱の組立を実施。

11:30木工クラフトが全て完成

後、インストラクターの案内で自然観察、「園内4か所にあるスタンプを集めるとステキなプレゼントがもらえる」スタンプラリーも行った。12:20木工芸センター広場に全員が集合、挨拶を行いスケジュールどおり終了した。

(記、写真 牧石 稔⑭)



### やどりき水源林ミニガイド

#### 「森の案内人」

森の案内人が土日に案内をしています。今年からの新しいメンバーも加わり、案内人一同皆様の訪問をお待ちしています。

#### 「水源林ニュース」

7月号「河鹿鳴くせせらぎの畔からお便りいたしま〜す♪」を発行しました。こちらからご覧ください  
<http://www.forest-kanagawa.jp/4field/news/news205.pdf>



森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>

(HP 担当：森本 利弘)

#### ◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

<電子配信企業等パートナー向け担当>

黒川 敏史

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel : 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: [happy\\_kumakuma711@icloud.com](mailto:happy_kumakuma711@icloud.com)

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先 : 080-5477-2206

[kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp](mailto:kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp)

【別冊】小国 一男

Mail: [ka-oguni@ab.auone-net.jp](mailto:ka-oguni@ab.auone-net.jp)

原稿は随時受け付けています。

#### ●やどりき水源林問合せ:

(公財)かながわトラストみどり財団

TEL : 045-412-2255

FAX : 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: [midori@ktm.or.jp](mailto:midori@ktm.or.jp)

(かながわ)森林インストラクターの会

ホームページ <http://www.forest-kanagawa.jp>

E-mail [k-inst0981@friend.ocn.ne.jp](mailto:k-inst0981@friend.ocn.ne.jp)

#### 編集後記

★ この7月より「報道・情報担当理事、広報担当理事」を担当させていただき運びになりました。これまでの人生、「報道」「広報」「理事」とは全く無縁に生きて参りましたが、ここに来て何の間違いか、かような重役を頂戴する運びとなり、こいつはどうしたものかと小首を傾げているところです。かくなる上は、新米広報部員として「森の仲間」の編集をお手伝いし、ゼロから勉強させていただきながら少しでも知名度アップに取り組んで参りますゆえ、長い目で(できれば温かく)見守っていただけますと幸いです。それではよろしくお祈りします。

(河西)

★車の高齢者の免許更新の通知書がきました。認知症機能検査と、高齢者講習を受けました。問題なしの通知書をもらいました。後は免許証の更新手続きだけです。認知症の検査内容の記憶力を検査の16イラストのうち2ケがでて来ませんでした。老いを感じました。

(松本)

★地元の活動場所で、タシロランが咲きました。蒸し暑い梅雨空の下、菌類と共生する腐生植物の楚々とした白色に癒されます。公開緑地だけに、無事に生き延びてくれることを祈りました。

(竹内)



<記事訂正>「森のなかま」7月号 7ページ 最終行

(記、写真 小林 照夫Ⓔ 写真 村井 正孝Ⓕ) に訂正します。

かながわしずくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。

かながわの水源地環境の  
保全・再生をめざして

[https://twitter.com/kanagawa\\_sizuku](https://twitter.com/kanagawa_sizuku)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

#### 年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

便振替口座 00230-0-2454 **かながわ森林インストラクターの会**

宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人: 黒川 敏史

広報部: 河西静夫、松本保 笠原かずみ

長尾晴子 竹内明彦 小林照夫

小国一男 小池宗子

支援: 大原正志 吉田郁夫